

夢を持つ

2017年7月

親は子供に「お前は将来、何になりたいんだ?」「夢を持って」と言います。

私も幼い頃、親に聞かれて、「人に迷惑をかけない大人になりたい。」と返事をしたことを憶えています。今思えば親を落胆させてしまったと思います。

自分が親になると、子供には夢を持つことをすすめるのに、自分自身は夢を持っていない親が多いような気がします。大人が夢を持つことは、何か気恥ずかしいところがあるのでしょうか。

大人が大人に言う、「お前は夢ばかり追いかけている。」という言葉に、いい意味で使われることは少なく、現実を知らず幼稚であるという意味が込められているように感じます。

当社の経営理念は、「社員の心物両面の幸福を追求すると同時に、社会に貢献する。」です。そのために、成長を感じられる職場。人から必要とされていることが感じられる職場。自分が社会に貢献していることが感じられる職場、に近づくように職場を改善しているつもりです。

社員のみなさんにとっての幸せは、「人生（仕事とプライベート）を通して、夢を実現すること」だと思います。拙い経験上ですが、夢を持たない人は、心が折れるのが早い気がします。

夢を実現するためには、当たり前ですが夢を明確にすることです。なりたい自分を明確にすることです。

将来なりたい自分の姿や夢を明確にすることを先送りして、漠然と、「自分は、人に喜んで貰えることが自分の喜びです。」という人は、繁忙期で負荷がかかると、「忙しすぎる」、という理由で職場を去っていくような気がします。

「自分は、人に喜んで貰えることが自分の喜びです。」は、自分を犠牲にして、他人の福利を願う尊い善意ですが、自分の幸福を他人に依存している場合もあり、尽くした相手に冷たくされると、一転して憎しみに変わってしまうことさえあります。

自分しか自分を幸せにすることができません。夢を持つこと、なりたい姿を明確にすることで、自分のことを大切にしておいて欲しいと思います。